

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100032		
法人名	(株)創生事業団		
事業所名	グループホーム イコロの里	ユニット名	愛
所在地	福岡県春日市平田台1-138-2		
自己評価作成日	平成24年11月27日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月12日	評価結果確定日	平成25年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームイコロの里では家庭的な雰囲気をいつも心がけています。畑に野菜・花などを植え、入居者の方々や収穫し楽しんでいます。地域交流では廃品回収・清掃活動・ラジオ体操などを中心に活動を行っています。10月には入居者様の希望もあり、柳川へ1泊旅行に行きました。ご家族様も参加され、川下りをしたり温泉に入ったりといつもとは違う、旅行という事で入居者様も大変喜ばれていました。また、普段の生活の中から食べたい物や行きたいところなどを聞き出し、入居者様とスタッフがマンツーマンで外出できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

イコロの里は、同法人のデイサービスや有料老人ホームと併設され、広大な敷地内には、整備された畑や遊歩道も設けられており、日々の散歩や、野菜の収穫をともに行う等、生活環境は充実している。地域との交流については、公民館で回覧板を受け取り、情報収集を行いながら、廃品回収などにも参加している。また、2か月に1度、地域の小学校から6年生の訪問を受けており、入居者の大きな楽しみごととなっている。今年度は、入居者、家族の要望に応え、柳川への1泊旅行も実現している。独自の「何でも帳」を作成し、発言や気づきを共有しながら、寄り添う支援へと結び付けようとしており、今後も、個別支援の追求や、地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて理念を声に出して読み、スタッフ全体で理念を共有して実践につなげている。	理念は毎朝唱和されている。また、職員の心得「人生最良の時を過ごして頂くために」として、5項目を掲げ、理念と共に職員間で共有し、実践に結び付けている。ホームの名前である「イコロ」は、アイヌ語で宝物の意味があり、入居者の方に対して「イコロ」の心で接する様にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に一回、回覧版取りに行ったり、月一回、廃品回収に参加したりと地域行事への参加が日常的になっている。又、二カ月に一回、小学校の子供達の訪問があり、入居者の大きな楽しみになっている。隣接する有料老人ホームとの共同の夏祭りには地域からの参加もあり、交流・触れ合いが出来るよう取り組んでいる。	毎週、職員とともに公民館に回覧板取りに行き、地域情報を収集している。廃品回収や、地区のお祭りにも、積極的に参加している。2か月に1度、小学校の6年生の訪問を受け、話し相手や折り紙製作などで交流し、大きな楽しみごととなっている。隣接する有料老人ホームと合同で夏祭りを開催したり、行事へ参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生との交流などを通して、地域の子供達に実際に認知症の方と触れ合ってもらえる機会を設けている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内で起こった問題を議題にあげたり、入居者状況報告・行事報告等を行い、家族・地域の方々、市役所の方から意見をいただいている。	複数の家族、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等メンバーで構成されている。状況報告や意見交換を通じて、サービス向上に活かせるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は実施指導を通して、事業の実情・ケアサービスの取り組みを伝えている。又、二カ月に一度の運営推進会議には必ず参加して頂いており、その際に相談等も行っている。	運営推進会議には、市職員の出席を得ている。不明な点の問い合わせや運営上の相談を行うようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。例えば、ベッド柵の使用一つにしても、位置によっては身体拘束につながる為、管理者とスタッフが話し合い、必要な所だけベッド柵を使用する様に印をつけている。	玄関ホールの中にある2ユニットそれぞれの玄関は、いずれも施錠されていない。また、地域との顔馴染みの関係作りにも留意している。研修計画の中に位置付け、職員の共有認識を図りながら、環境整備の工夫や個別の検討を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法については、内部研修を通して学ぶ機会を設け、スタッフにも十分理解してもらい、虐待防止に努めている。	

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修を通して、成年後見制度について学ぶ機会があり、資料の準備をして、いつでもお出しできるようにしている。	玄関には、制度に関するパンフレットを置いている。研修参加や、内部での伝達講習を通じて、また、現在制度を活用している方もおり、支援の過程を通じて、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際は、十分に時間を取り理解、同意を頂いている。全ての内容を文章・口頭で伝え、しっかり納得の上、不安がない様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時に、個別に意見や要望を聞き取り、運営推進会議の際に外部へ表せる機会を設けている。又、苦情・要望ノートにどんな小さなことでも記入し、全職員で共有している。	「苦情・要望ノート」を用意し、意見や要望を記載し、職員で共有している。今年度11月の柳川への1泊旅行は、家族からの要望で実現したもので、入居者8名と2家族の参加があり、大変好評だった。運営推進会議にも複数の家族の参加があり、意見や要望などの収集を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設する事業所管理者会議に出席すると共に、毎日の申し送りを中心に意見や提案を聞く機会を設け、全体では月一回のスタッフミーティングの場で意見交換をしている。又、個別に面談を行い、個人の意見を取り入れている。	日々の申し送りや、毎月のミーティングを通じて、意見交換や情報共有を図っている。また、管理者が参加する法人運営会議で検討し、反映に努めている。個人面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人の能力・実績・仕事ぶり・態度など把握し、評価を定期的に行い整備している。又、無理のない勤務設定をし、働きやすい環境を整えている。働きやすい職場を一番としている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、本人の意欲を最重視している。また、それぞれの職員の能力を生活かし、それに合った係(仕事)や担当を努めてもらい能力を発揮してもらっている。	定年制はあるが、採用にあたっては、特別な制限は設けていない。また、意欲のある方には、定年後の再雇用も可能である。「資格支援制度」を設け、資格取得に向けたサポート体制を整備するとともに、研修体制の充実に取り組み、スキルアップを支援している。遠距離通勤の方には寮を用意するなど、働きやすさへの配慮が行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実践者研修を通して、人権教育・啓発活動を学んでもらっている。また、就業時やミーティング等で話す機会を設けている。	採用時のオリエンテーションにて、人権教育を行っている。また、実践者研修参加や伝達を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、事業所内での研修など計画を立て、レベルアップにつながるようにしている。報告書にてスタッフ全員に共有してもらい、育成に努めている。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームを中心に、スタッフ数名で見学に行き、他ホームのサービス内容を学んだ。それを報告書にて全スタッフへ伝達しサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人と面会し、困っていることや要望等を聞き出せる様に努めている。又、本人が意思を伝えきれない部分は、家族やケアマネージャー・介護職員を通して、不安や困難なことを把握し、本人が安心して生活を送れる環境作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、家族と面接しフェイスシートの項目(認知症に対する取り組み・要望等)に沿って聞き取りを行い現状の把握に努めている。困っていること・不安なことを聞き出せる様、信頼作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談時に聞き取りを行った上で、体験入居という形を取り、他のサービス利用も視野に置いて、「その時」まず必要としている支援を見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の言動に耳を傾け、人生の先輩である事を意識しながらも、一緒に喜び楽しめるような関係作りに努めている。又、料理や洗濯・掃除などを一緒に行い、入居者様から教えてもらったりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に定期的には手紙や写真を送ったりしながら、ホームでの生活の様子をお伝えすると共に、ご本人にもご家族様の事を伝えたりし良い関係が続くように努めている。家族と入居者、スタッフで食事会をする機会も設けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通われていた美容室に家族の協力のもと、行かれていたり、馴染みの場所にドライブでお連れしたりとしている。本人が今まで育てられていた犬を連れてきてもらい喜んでもらっている。	家族の協力も得ながら、馴染みの美容室の利用や、墓参り、法事への参加が行われている。また、以前住んでいた地区の催し物に参加することもある。愛犬を家族が連れてきてくれたり、友人の来訪を歓迎している。入居後に知り合いであることがわかり、ユニット間を行き来される方を見守っている。	

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、気の合った者同士が会話をしたりしながら過ごせる空間作りをしている。しかし人間関係が上手いかわからない方たちもいるので、トラブルにならないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必ず年に二回は手紙をお送りしたり、又、面会に行ったりしながら、今までの関係が継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを把握し、全職員で共有する為に独自の「何でも帳」を作成している。希望を表すのが困難な場合はその方の生活歴や家族からの聞き取りなどから思いを汲み取り支援をしている。	「何でも帳」を作成している。センター方式の様式を参考にし、本人の写真とともに、意向や発言、気づきを記入している。各担当者を中心として情報収集を行い、職員間での共有に努めている。	「何でも帳」を活かし、介護計画への反映や家族との共有を図る取り組み等、実践に結び付ける働きかけや、その取り組みを活かした認知症ケアへのアプローチが期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族からの聞き取りとケアマネージャーからの情報提供の依頼をし、これまでの生活歴やサービス利用の経過、介護サービス利用の状況の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便、食事量、水分量などをチェックし変化を見逃さないようにしている。一日の過ごし方については、申し送りの際に一人一人の状況をこまかく伝えるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたって本人の思いを組み入れ、担当者、家族と話し合い計画を作成している。又、モニタリングに関しては達成状況を担当に記入してもらい見直しにつなげている。	サービス評価表を用い、日々の実践状況の確認や担当者による評価を行い、担当者会議やカンファレンスを通じて、見直しにつなげている。本人、家族の意向を踏まえ、医師の意見書等を参考にしながら、介護計画を作成している。「何でも帳」も活用しながら、個別の暮らしを反映した計画作成にも期待します。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。又、気づきや工夫を伝達帳やヒヤリハットノート、何でも帳に記入しスタッフが必ず目を通すようにし、情報の共有に努めている。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方にいらっしゃる所は、病院付き添いなどを行い、入居者様からの希望やニーズがあれば個別に外出や外食の支援をマンツーマンで行えるようスタッフを増員したりして柔軟に支援ができるようしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームに入居した後も、もともと暮らしていた地域の敬老会に参加し本人が楽しめるように支援している。また併設している施設の書道教室、陶芸教室等に参加されている入居者もいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居面談時に協力医療機関の説明をしている。かかりつけ医による月2回の往診と歯科医による往診などで適切な医療を受けられる様に支援している。	入居時に、かかりつけ医について確認している。協力医による月2回の往診を実施し、歯科は希望者のみで、週1回程度の往診である。発熱時等の対応については、職員同行で受診し、家族に連絡し説明している。	個別の通信等が作成されていないため、健康状態や受診状況に関する、家族との情報共有については、今後の充実が期待されます。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の看護師には困った時に常に相談している。又、隣接している同グループの看護師にも協力を得て相談したりしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、定期的に面会を行い、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、医療方針の説明を行っている。重度化を迎えた入居者様は、かかりつけ医の指示の元、適切な医療機関を紹介している。	入居時に、ホームとして出来ること、出来ないことや、関連施設や医療機関との連携も含めた対応について説明している。	事業所として、重度化した場合や終末期のあり方について明文化し、方針を示していくとともに、本人、家族の意向確認やニーズをくみ取りながら、状況の変化に応じて話し合いを重ねていくことが期待されます。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、スタッフは救急救命講習に参加し心肺蘇生法や応急手当の訓練を学んでいる。又、緊急時対応の流れを定期的に確認している。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、災害対策に関する研修にも参加している。又、地域の消防訓練にも参加している。	併設される有料老人ホームと合同で、消防訓練を行っている。また、地域の防災訓練にも、入居者とともに参加している。法人として、備蓄品を用意している。	今後も継続して地域との連携体制が深まるよう、運営推進会議等を活用した災害対策への取り組みが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居室への出入りの際は一言声かけを行うようにし、プライバシーを尊重している。日常の会話ではまずは「人生の先輩」という事を頭に入れてその方の生活歴を把握し声かけの工夫を行っている。	内部研修を実施し、言葉使いや呼び名、対応について意識を高めている。排泄ケアの際のさりげない対応等、羞恥心やプライドへの配慮に努めている。「何でも帳」を用い、個人の理解と尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様のやりたい事を第一に気持ちを尊重している。例えば、何を食べたいかなどを一緒に相談し、極力自己決定出来るよう声かけしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好み、興味を考慮しながら見守りや声かけにより共に行動し、入居者様の思いを第一に支援している。散歩に行きたいという入居者がいれば希望に添って対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみは声かけや介助によって行い、行事や外出時には必要に応じ、洋服なども入居者様と一緒に選ぶ等しながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔行っていたことを活かして野菜刻みや料理のつぎ分け・配膳などを出来る事からやってもらい、また、食器洗いなども一緒に取り組んでいる。	法人栄養士の作成による献立を参考にしながら、嗜好にも配慮している。毎日、入居者の方とともに買い出しに出かけ、畑で収穫された野菜が食卓に上ることもある。誕生日には、職員手作りのスポンジに、入居者がデコレーションし、お祝いしている。時にはおやつ作りで、たこ焼き、おこのみ焼きなどを作っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食事形態や好みに応じた一人ひとりに合った支援を行っている。例えば食事が入らない時などは時間をずらして食事を提供したり、パンや甘いもの等、本人様が好んで召しあがるものを提供したりしている。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを基本とし、特に自力で口腔ケアが出来ない方については歯科衛生士と相談しながら清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの状況に応じてトイレの間隔も違うので、個々に合わせたトイレ誘導をしている。オムツ使用の有無等、スタッフミーティングで話し合い状態に合わせて使用している。	日中は布パンツ過ごされる方が多く、排泄パターンを把握して、個別の対応を行っている。夜間は、リハビリパンツやパットを使い分けている。日頃から、安易にリハビリパンツを使用しないように、心掛けている。トイレにトイレマットを敷き、家庭の雰囲気を出している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方などには多めに水分を摂って頂いたり、食事係との相談、また、主治医の指示のもと下剤などで調整している。毎日、牛乳・バナナヨーグルト・ヤクルト・プルーンを提供してなるべく自然排便につなげている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴の対応をさせて頂き、又拒否がある方には無理強いせず本人に合わせた入浴の声かけをしている。また、入浴剤での雰囲気作りなど状況に応じた工夫で清潔保持に努めている。	毎日入浴準備を行い、毎日・隔日、午前・午後と、本人の希望に添って入浴できる様支援している。個浴用と特殊入浴用の浴室が設備されており、特殊入浴用は浴室、浴槽とも広く作られ、入居者の状態に合わせて使い分けている。入浴拒否の方にも、臨機応変に対応し、無理強いとならないよう、気持ちよく入浴できるように配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要以上に声かけせず、一人ひとりゆっくりと生活して頂ける様な支援を心がけている。なかなか寝付けない方には一緒に会話したりホットミルクを提供したりと安心して眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬を把握できるように処方箋や医療記録を確認している。服薬拒否がある方は医師・薬剤師に相談し、錠剤を粉状に変えてもらうなどの工夫をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中での時間の流れの合間にその方の興味(楽しみ)があるものなどを提供したり、生活歴を活かし、料理の手伝い・食器洗い・又、皆で体操に取り組んだり、新聞を見たりと個々に応じた支援を行っている。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や買い物はスタッフ付き添い支援している。また、出かけようとされる時は止めたりせず、本人の希望に合わせて外出している。又、本人の要望をお聞きし、外食やデパートに出かけられるように支援している。	グループホームの傍にある広大な庭園には遊歩道が設けられており、散歩を日課にしている方がいる。また、畑の野菜の収穫も入居者とともにしている。食材の買い出しに同行される方もいる。少人数で、外食や、近くのショッピングモールに出かけている。家族の参加を募りながら、柳川一泊旅行が実現している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく入居者様に財布を所持してもらっている。本人のものを購入される場合は本人が支払いができるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話や手紙を出したいと言われたら、可能な限り、すぐに対応している。手紙のやり取りは暑中見舞いや年賀状を中心に行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気に合わせて、玄関先には花壇を作り、季節の花を植えている。又、直射日光があたらないようによしずを置いたりしている。クリスマスツリーやひな飾りなど季節感をとり入れ、また本棚や観葉植物を置き居心地良く暮らせる工夫をしている。	高い天井に設けられた天窓から自然光が差し込む。事務所を中心として、L字型に2ユニットが配置されている。床面とフラットになった畳コーナーには掘り炬燵が設けられ、寛ぎの場所となっている。習字の作品や、クリスマスツリー等の季節感ある演出が施されている。広大な庭園や趣きある玄関ホール等、生活環境は充実している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥の窓辺にソファを設置し、そこで静かに過ごされる方や共同ソファに座られ新聞を読んだり、スタッフと会話したりできる空間作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋であると分かりやすいように入口に本人の写真や好きな小物を置くようにしている。本人が以前から使っていたタンスや馴染みの家具を自由に持ち込んでもらい、居心地の良い空間作りをしている。	居室入口には、本人の写真と小物が飾られている。箆笥やテレビ、御位牌等とともに、小物やぬいぐるみ等で飾られ、安心して過ごせるように配慮されている。家族とも相談しながら、リスク軽減に向けて環境整備の工夫に努めている。居室の清掃は、入居者の方と職員が協力して行うようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすいようにしておき、出来るだけ一人でできるようにしている。又、見やすい日めくりカレンダーを作り日にちが分かるようにしている。		